

- Vertrauen und Kommunikation  
Zur akademischen Gedenkfeier für Otto  
Friedrich Bollnow  
森 邦 昭
- The Nature of Women's Inferiority:  
An Introduction to the Feminist Semiotics  
of Donna Haraway Scott Pugh
- 英語における時制の照応 佐 保 玲 子
- ランボオと「醜き娘たち」  
— その「屈折光学」について —  
中 村 弘
- 第58号(1994)  
自然美の批判的意義  
— カントの超越論的趣味批判を手引きに  
して — 望 月 俊 孝
- Einige Überlegungen über das Glück des  
Menschen 森 邦 昭
- A Lost LadyにおけるNielの視点と夫人像に  
ついて 酒 井 三千穂
- シャーウッド・アンドソン、『プア・ホワイト』  
— 自然児ヒュー・マクヴィと都市化 —  
馬 場 弘 利
- 不定詞関係節に関する覚え書き  
佐 保 玲 子
- バラッド詩の系譜(1)  
— 18世紀序曲: *Hardyknute* —  
山 中 光 義
- Leaves of Grass*  
— アメリカの自伝 — 吉 崎 邦 子
- Memento Mori* における時間  
吉 田 徹 夫
- コンピューター・コーポラ利用による現代英米  
語法研究  
— tillとuntil — 杉 山 隆 一
- 第59号(1995)  
袁氏三兄弟と李卓吾 疋 田 啓 佑
- カントにおける物への問い  
— 伝統的存在論の継承と革新 —  
望 月 俊 孝
- 解釈学的教育学における徳論の試み  
— ボルノウにおける感謝の念の概念をめ  
ぐって — 森 邦 昭
- 女子大生における自我同一性の発達  
山口快生・長尾 博
- 英語学習における英語学力と学習意欲の関係に  
ついての調査研究  
— TOEIC 模擬試験とアンケートを用いて  
の一考察 — 田 上 優 子
- Hard Nuts 構文に関する覚え書き  
佐 保 玲 子
- Kate Chopin のロマンティシズムについて  
酒 井 三千穂
- John Steinbeck: Antibiography, Autobiography,  
and the Stuff Legends Are Made Of  
Scott Pugh
- "Drum-Taps" 詩群における Whitman のナショ  
ナリズム 吉 崎 邦 子
- The Spire* における Jocelin の学び  
吉 田 徹 夫
- バラッド詩の系譜(2)  
— ヤロー川詩情: *The Braes of Yarrow* —  
山 中 光 義

第53号(1989)

「明暗」の原型

—「Moment ノ perpetuation」のモチーフをめぐって—

石井和夫

中世説話の表現形成(下)

—説話主体の読みと表現—

竹村信治

パリ司教と altare (10—12世紀)(上)

岡崎敦

*The Hamlet* の Flem Snopes と Frenchman's Bend について

酒井三千穂

チャーサー散文における there 存在文

杉山隆一

L'Interprétation des *Illuminations*

中村弘

“THE IMPOSITION CLEAR' D”

—シェイクスピアにおける時間と救済—  
(承前)第2章

丸田敬

故 菊地宏助教授追悼録

松浦良平・内藤俊彦・望月俊孝

第54号(1990)

技術理性の批判にむけて

望月俊孝

教育学のためのディルタイの一構想

—「教育学体系概論」第1節—

森邦昭

サン・マルタン・ドゥ・ポントワーズ修道院の prieurés と小教区(11—12世紀)

岡崎敦

John Dos Passos: *Manhattan Transfer* 論

—都市からの敗走—

馬場弘利

“THE IMPOSITION CLEAR' D”

—シェイクスピアにおける時間と救済—  
(承前)第2章(続)

丸田敬

第55号(1991)

宇治拾遺物語論

—表現性とその位相—

竹村信治

ディルタイにおける精神科学の認識論的=論理的=方法論的基礎づけ

—論理学講義をてがかりにして—

森邦昭

*The Awakening* における「目覚め」の行方と結末

酒井三千穂

*Edwin and Angelina* の感傷性

山中光義

第56号(1992)

基本的人権の「前国家性」に関する一試論

—社会契約論における権利概念によせて—

門田孝

ウィリアム・フォークナーの『死の床に横たわりて』—アディと言葉を中心に—

酒井三千穂

Theodore Dreiser: *Sister Carrie* (1900)

—都市の誘惑—

馬場弘利

中世英語における There 存在文の発達

杉山隆一

ランボオと聖書

中村弘

バラッドの据え方

山中光義

“THE IMPOSITION CLEAR' D”

—シェイクスピアにおける時間と救済—  
(承前)

丸田敬

第57号(1993)

「神無月いつも時雨は」考

—『源氏物語』引歌瞥見—

田坂憲二

規定された自然と自然の未規定性

—自然に関する人間の倫理への一試論—

望月俊孝

- 表現主義におけるニーチェ受容(II)  
—シュテルンハイムの『ドン・ファン』  
をめぐって— 恒吉良隆
- スコットのバラッド編纂をめぐって  
(Appendix: Poets on the Ballad (5) —  
E. Muir<sup>2</sup>, W. Plomer and C. Day  
Lewis —) 山中光義
- When Honour's at the Stake  
—『ハムレット』覚え書き—  
丸田敬
- 第49号(1985)  
『宇治拾遺物語』における〈翁〉と〈童子〉  
—その〈他界〉性をめぐって—  
藤本徳明
- 京都大学本「源氏大鏡」について  
—「源氏大鏡」二類本二次本考—  
田坂憲二
- 「さらぬ別れ」について 鎌倉暄子
- 「傷ついた名」  
—ハムレットにおける「芝居」—  
丸田敬
- LITTLE MUSGRAVE AND LADY BARNARD  
—性とユーモア— 山中光義
- 十四世紀英語散文における存在構文  
杉山隆一
- 第50号(1986)  
『義孝集』本文考(二)  
—勅撰集・私撰集所収歌を中心に—  
田坂憲二
- 「きのふこそさなへとりしか」の考察  
—古今和歌集における本歌取りの要素を  
めぐって— 鎌倉暄子
- ウィリアム・フォークナー：『死の床に横たわ  
りて』論—否定からの旅立ち—  
馬場弘利
- 『橋』の表現法について 福間欣一
- バラッド鑑賞二題  
—SIR PATRICK SPENCEとTHE  
DAEMON LOVER—  
山中光義
- 「私はライオンではない」  
—『真夏の夜の夢』覚え書き—  
丸田敬
- 第51号(1987)  
『原中最秘抄』の完本と略本 田坂憲二
- 隠喩としての姦通  
—檀一雄『火宅の人』恣論—  
花田俊典
- 「已然形+ヤ」の構文について  
—万葉集における「あれや」「なれや」を  
めぐって—  
鎌倉暄子
- ナサニエル・ウエストの『いなごの日』論  
—その黙示録的終末観を中心に—  
馬場弘利
- バラッド鑑賞二題  
—LORD RANDALとTHE CRUEL  
BROTHER— 山中光義
- 「思い出」と「祈り」  
—再び「尼寺の場」をめぐって—  
丸田敬
- 第52号(1988)  
「吾輩は猫である」の〈笑い〉の組立について  
石井和夫
- ニーチェにおける仮面の思想  
恒吉良隆
- “THE IMPOSITION CLEAR'D”  
—シェイクスピアにおける時間と救済—  
序章 丸田敬

第44号(1980)

再び剪燈叢話について

— 萬曆期文芸思想動向の一斑 —

秋吉久紀夫

中世日本の僧侶と禁欲主義

— 一つの世界史的考察の試み —

井手恒雄

表現主義におけるニーチェ受容(I) — 序説 —

恒吉良隆

『冬の物語り』 — 不信の循環 —

丸田敬

第45号(1981)

刊本『笈の小文』の諸問題(上)

— 「須磨紀行」をめぐる —

井上敏幸

「白痴」の位置

— 戦後安吾文学の出発 — 花田俊典

近代市民社会とそのイデオロギーに対する批判

— ヘーゲル・フランクフルト草稿を中心として — 中岡成文

『美しく呪われた人』の批評について

馬場弘利

BY THE OLD GRADATION

丸田敬

Mandeville's Travels における限定形容詞の配置に関する若干の考察

杉山隆一

第46号(1982)

『今昔物語集』巻30と近代文学

藤本徳明

『将来之日本』について

菊地宏

少女非行の背景 — 家庭と学校のかかわり —

(少女苑生・一般中・高生女子の実態調査)

秋枝蕭子

アメリカ独立革命の原因についての再考察

三浦進

Poets on the Ballad(4)

— Sir Walter Scott and W. Motherwell

山中光義

『孤独な娘』(Miss Lonelyhearts) 論

— ナサニエル・ウエストのアメリカ意識

馬場弘利

Rimbaud ou Hermaphrodite spirituel

中村弘

第47号(1983)

森有礼とホーレスマン

— 教育と経済のかかわりについて —

秋枝蕭子

觸體誦経説話の現代文学への投影

— 『靈異記』『今昔』と古井由吉・

中上健次・半村良 — 藤本徳明

『鹿島小志』解題と翻刻

— 『<sup>楓園</sup>家塵』抜書(三) — 井上敏幸

朝顔姫君の構想に関する試論

— 葵巻を中心として — 田坂憲二

「狂気の根」 — 『マクベス論』 —

丸田敬

アメリカ独立革命の結果についての再考察

三浦進

第48号(1984)

鍋島直條と寂源僧正

— 『<sup>楓園</sup>家塵』抜書(四) —

井上敏幸

『我身にたどる姫君』の年齢表現

— 付年齢・官位・身分一覧 —

田坂憲二

部分的にカテゴリー化された材料におけるリハーサルが想起におよぼす効果

山口快生

# 総目録

## 掲載論文総目録 — 第41号—第59号 (第1号—第40号については第40号参照)

### 第41号(1977)

芥川文学における〈聖なる愚人〉の系譜

— その序章 — 宮坂 覚

自叙伝に見る行動の方向づけ, 開始, 変容の外的要因の研究〔II〕 町田 恭三

The American Revolution Considered as an Economic Movement

三浦 進

The Function Word *there* in the Fourteenth Century Prose Part I. The Kentish Dialect

杉山 隆一

L'Interprétation des *Illuminations*

中村 弘

R. J. ゾルゲの「ニーチェ時代」とその作品 (I)

恒吉 良隆

F. スコット・フィッツゼラルド: 『夜はやさし』論

馬場 弘利

Poets on the Ballad (I)

— W. B. Yeats, Edwin Muir, and T. S. Eliot —

山中 光義

The "Necessary Question of the Play"

Chapter II *Macbeth* 丸田 敬

### 第42号(1978)

徳富蘇峰管見 — 透谷論のためのノート —

菊地 宏

「証空師の命に替はる事」(発心集)ほか

— 師弟の道義の問題をめぐる —

井手 恒雄

R. J. ゾルゲの「ニーチェ時代」とその作品 (II)

恒吉 良隆

ME 散文 *The Cloud of Unknowing* における名詞修飾構造 杉山 隆一

*Colin and Lucy* — バラッドの模倣と逸脱 —

(Appendix: Poets on the Ballad (2)

— Herbert Read and Robert Graves —)

山中 光義

The "Necessary Question of the Play"

Chapter III. *Othello* 丸田 敬

Critique of a Nontransformational Account of Gerundive Nominals by Schachter

及川 玲子

### 第43号(1979)

出家 — それをとめる側の論理 —

井手 恒雄

自由想起におけるリハーサル諸技法の効果

— リハーサル時間と材料の関連性との交互作用の効果 —

山口 快生

L'Interprétation des *Illuminations* III

中村 弘

シャーウッド・アンダーソン: 『ワインズバーグ・オハイオ』

— ジョージ・ウィラードのゆくえ —

馬場 弘利

バラッドのリフレインとヴィクトリア朝の詩人たち

(Appendix: Poets on the Ballad (3) —

Sir Philip Sidney and Joseph Addison —)

山中 光義

False Fire: 又は Dumb Show

丸田 敬